

## あきたかた Meetup – #教育を語ってみる – 2021.3.17 19:00-20:00

【中学・高校生編】

### 【Question 1】

現況では多くが高校から市外へ出て、それから先安芸高田市に戻ってきたいと思える環境にないと感じます。他所から入ってくるには独特の慣習等があり壁が高く感じます。本来、働く場所や住む所、市政として子育て世代や若者をもっと呼び込む事が出来たのではないかと感じています。外からの視点で安芸高田市を見られた市長のご意見を伺いたいです。

### 【Answer】

#### ■石丸市長

外から見た視点としては、やはり戻ってくるだけの理由が少ないっていうのが正直なところかと思います。安芸高田市でしかできないことはほとんどなく、逆に都会でできることの方が圧倒的に多いですね。外に出てしまった人間が戻る理由は、よほどのことが無いと難しいだろうなと。私でいえばこの町にいずれは戻ってきたいという思いがあったんです。「いいキッカケだった」というそういう人ばかりではないと思いますので、なかなか難しいのだろうなとは思っています。

### 【Question 2】

6町の中学校の中ではクラブ活動の選択肢少なく、団体種目の競技では合同でのチーム編成もあるのが現状です。オール安芸高田で団体競技に出場する事が出来れば良いと思います。将来的には、中学校の統合も視野にいれなければいけないと考えます。市長の意見をお聞かせください。

### 【Answer】

#### ■担当課

実際に野球部などは連合チームで大会にも出ているケースがあります。6中学校の部活動で連携しながら、可能な範囲で進めていければと思います。

#### ■石丸市長

部活の話ですが、連合チームで出ているものもあります。野球部等。この部活動を維持するにはある程度やはり人数が必要になります。すでにいくつかの中学校では、なかなか部活が選べにくいという現状になっていると伺いましたが、団体競技などはどんどんやりにくくなると思います。それが必ずしも不幸というわけではないですが、ただ選択肢というものは可能性なので、可能性はできる限り次世代にも残してあげたほうがいいんじゃないかなと考えています。

#### ■担当課

確かに部活動の選択肢が段々子どもの人数も減って少ない、合同練習にしても土日でしかなかかなか組めないということで非常に痛いところですが、可能な範囲で他の部活でも進めていければいいなと思っています。

【Question 3】

中学生の部活動の外部指導員が配置されている中学校といない中学校があります。部活動は必要かと思いますが、今年度は特にコロナの影響もあり試合等の中止も多く、また市内で行われる試合などは人数の差も含め隔たりがあり、先生方の負担にも差が出るように感じます。部活動は必要かと思いますが、外部からの指導員は必要なのでしょうか？

【Anser】

■担当課

部活動は教育課程外の教育活動であります。学習指導要領では、学習意欲の向上や責任感等の涵養、好ましい人間関係の形成においても教育的意義があり、学校教育の一環として、教育課程との連携が図られるよう、留意することと示されています。教育的効果があることから、教育課程外ではありますが、市内の中学校は生徒を部活動に位置付けることを推奨しています。外部指導員は、それぞれの部活動において、専門的な技術を有しており、子どもたちが専門的な指導を受けることができる機会となります。また教員がそれぞれの部活動の専門的知識を持っているとは限らず、負担軽減、継続的な部活動指導の観点からも、教員以外の外部指導員が必要であると考えます。しかし山間部においては人材の確保が厳しい状況で人材確保に苦慮しているのが現状です。

■石丸市長

私の方で理解が足りないのですが、質問は「指導員は必要ないのではないか」というご指摘なのですか？担当課としては、教員以外の外部指導員が必要だという見解です。私もそれに賛成・賛同します。もっと専門家を学校に招いた方がいいのではないかと考えています。部活はもちろん、教員、教職員、担当科目はもっと得意な人がやるべきだと思います。勉強が得意な人が勉強を教えたほうが絶対いいです。野球が得意で野球が好きだった人が教えるのが一番いいです。そうならない現実があるんじゃないか。やはり、勉強が好きかどうか、部活、スポーツが好きかどうかというのは教える際に非常に大事なキーになるはずですので、その辺りはその人の個性も能力に含まれるものとして、適材適所に配置をするべきだと思います。その意味では、なかなか一自治体が言える範囲ではないですが、教員というものの在り方、その議論を本当は始めるべきだと考えています。

■担当課

部活動というのも、教員もいろいろな部活動を経験したりしているものが多いです。自分が得意としている部活動を受け持つというのは難しい状況です。私もテニスを中学校高校時代にやっていましたが、実際に受け持ったことは数年しかありませんし、ほとんど経験のない部活動を担当していました。そういう現状です。自分がやってきたところで指導ができるというのが理想ですが、なかなかそれができていません。ちょっとどうしようもない状況かなというふうに思います。ただ言わせてもらいたいのが、得意なスポーツより、いかに部活動を通して子ども達をどのように成長させていくのかという思いがあれば、得意不得意関係なく部活動の顧問は教育的効果があるんじゃないかなと思います。

■石丸市長

どうしようもしがたい現実、現場の課題、状況というのがどうしてもあってしまうのですが、これは部活に限らず何が主役なのかという観点で確実に子どもたちなので、育てられ、育まれる方を主役にしないといけない。子どもファーストにならないと、教育の成果はやっぱり上がらないのかなと思っています。その意味では、教育委員会というのは市長、執行部から独立したところではあります。が、いつも話をさせて頂くのは、優先順位を明確に、子ども最優先になっていくように。予算配分はこちらの裁量ですので、その辺りはいつも検討させていただいているところではあります。

【Question 4】

一般質問で小学校統合について意見されてきました。交通手段等が整えば、個人的には多様性も学べる観点からも統合は良い事だと感じています。中学校統合も近い将来、やむを得ない状況にあると感じますが、やはり中心地外からの交通手段や各町の隔たりが懸念されます。統合に向け市長がどのように考えられているのか伺いたいです。

【Anser】

■石丸市長

プロコンの部分ですね、メリットもありますがデメリットもあります。特に、通学というのは非常に大きな課題になるはず。なので、実際統合するとなった時には、その通学のインフラ、費用の面も含め一切切同時に解消しなければこれは実現しないというものになります。なので、このあたりの理想と現実のギャップがどれくらいあるのかというのをこれから洗い出して、皆さんと一緒に「こんな課題がある」「メリット、デメリットが許容できるのか」という議論をさせて頂こうと思っています。

【Question 5】

子供から。部活について、どうして部活に所属しなければならないのか？入りたい部活の選択も少ないし、学校で勉強するだけでも大変だったりするのに。部活も所属しない選択もあって良いのでは。

【Anser】

■担当課

部活動については、教育的効果があることから、教育課程外ではありますが、生徒の部活動への入部を教育方針としている学校がほとんどです。法的には部活動に必ず入らないといけないということはありません。昨今、地域のスポーツ少年団や他団体に所属している生徒が増えており、市内の学校も部活動の在り方について、検討していかなければいけない時期に来ていると受け止めています。

■石丸市長

これはですね、今大学からインターンが来てくれているんですけど、彼らが市に対する提案をしてくれた中に、「兼部を推奨する」というのがありました。私はいいと思うのですが、（担当課へ）兼部どうですか。兼部であったり入らないという選択肢ですね。

■担当課

検討していかなければいけないことだと思います。部活動というのは、教育課程外です。つまり、必ずしないといけない教育内容には含まれていないので、法的には部活動に入らなくてもいいのですが、教育的に非常に効果が高いということで、市内の6中学校全て生徒の部活動を位置付けるという教育方針をもってしております。学校以外でも子どもたちが夢中になれるものが色々ありますので、検討していかななくてはいけない段階だと受け止めております。今後検討していきたいと思います。

■石丸市長

今入る、入らない、それから兼部とか、やっぱり新しい部活とかもどんどん生まれていっていいのかなと思います。人によって賛否はありますが、例えばeスポーツの部活とか。私のイメージでは進学校ほどそういうのに前向きだったりするのかなというのもあります。なので、先ほど申し上げた子供たちの可能性を広げるという意味では、色々な選択肢が用意されてしかるべきだろうとは思っています。

【Question 5】

保育園、小、中ほとんど変わらないメンバーで過ごしています。穏やかで良い面もありますが、イジメや不登校等さまざまな問題に直面した際、知っているからこそ周りにもなかなか相談しにくい環境にあると感じます。また通級が設けている学校とない学校がありますが、個々の学校のくくりではなく、市内どこでもという環境があれば良いと思います

【Answer】

■担当課

ご自身が子どもだった時、嫌だった時や困ったときは、先生に相談する前に友達に困ったことなどすぐに声をかけていたように思います。相談をする事ができる仲間づくりっていうのはすごく大事なことで、中学校になってからスタートしたのでは手遅れになってしまいます。ですので、小学校、保育所、幼稚園の頃から、そういう人間関係づくりのところは丁寧に進めていく必要があると教育委員会の方でも把握をしております。また、学校において、複数の体制で子どもたちの様子を見ていく学校の体制づくりというのを現在進めているところです。後、質問の中に「通級」の事も出ていましたが、通級は対象となる児童・生徒がいれば市内どこの学校でも実施することができますので、ご安心ください。

■石丸市長

これで大体お答えになったのかなと思いますが、スペシャルサポートルームのお話が少し関係すると思うのですが。

## あきたかた Meetup – #教育を語ってみる – 2021.3.17 19:00-20:00

【中学・高校生編】

### ■担当課

別室で指導したりということですが、これも学校の状況に合わせて、すぐに人がついたりということは難しいので、現状の体制の中でできる限りのサポートを考えて実施しているというところであります。

### ■石丸市長

この前、県の教育長と話をしたときに、吉田中学校がその対象になっているようなお話が出たのですが、それで認識がありますか？

### ■担当課

現状として、吉田中学校で行っています。

### ■石丸市長

このあたりで概ね回答になってますでしょうか。

### 【Question 6】

統合後の中学校の具体的なビジョンが市長にはお有りですか？これまで統廃合の話し合いの際には、統合後の具体的な学校像は人数と場所以外あまり示されませんでした。具体的なビジョンなく、統合するか否かを話し合うのはとても難しいです。市長の思い描く具体的な中学校像があれば、実現可能化も含めてお聞きしたいです。

### 【Answer】

### ■石丸市長

まずはプロコンだと思います。メリット・デメリットの整理ですね。ビジョンとしては、私はもう一本化すべきだと思っています。地理的に広いですが、人口規模としたらもう寄せて集めて何百人の1学年になっているので、早く集中させて、そこに変わらないか若しくはちょっと多い予算を配分する、みんながたくさんの質の高い教育を享受できるような体制にするのが望ましいだろうと思っています。それはソフト、ハードの面も同様です。私の巣立った吉田中学校は、昔のまままで柱だけ増えて残っていたりします。今回予算を新たに組んだ中ではトイレの改修とかをまだやっているんですよね。それですら100%にならないのですが、和式を洋式に改修する、まだその段階です。こういうのは早くクリアにして例えば広島市内とか東京に都内にあるようなオフィスビルのような中学校の校舎があってもいいと思うんですよね。そこで最先端の教育、ITなどいろんなものを学べるとしたら、それは見合ったハードだと思うので、そういう集中的な資本の投下を可能にするためにも、この統廃合というのは必要なんじゃないかなと考えています。

■参加者からの質問

市長が統合するのであれば、「こういう学校にしていきたい」という思いがあるとして、それはどのくらい実現できるのかなというのがあるんです。とはいっても教育委員会、学校は文部科学省に従わないといけないので、どのくらい市長が思い描かれるものができるのかなというのがあります。そういう具体的な、例えば統合に向けて話し合いをしていくのに、「こういう学校にします」「新設するならこういうのを目指します」ではダメなんです。実現可能なプランを示してもらって話し合いをしないと、結局は「統合しました、でもあまり他と変わらない、中途半端な学校になる」と。そこに行かすなら、もうどうせなら市外に通わせようとか、そういう選択肢がどんどん出てくる。そうなったときに地元で中学校はない、ちょっと遠いところに1つある、でもそれも中途半端かなとなると、特に中心地から離れたところはダメージが大きくなるので、そこをもし話し合いをしていくならちゃんと「こういう学校を作ります」という約束の上で話を進めていっていただくことができれば、一番いいなと思っています。

■石丸市長

私がアイデアのところでお話をしたのにちょっと引っ張られてしまったのかなと思います。いきなり夢を砕くようで恐縮ですが、突飛なことはできません。予算もないので。その意味では、せいぜい都会のちょっと良いところぐらいを目指す、これが限界です。それをなぜやるのかというと、逆を考えてみてください。もう学校機能が維持できなくなって、そこに子どもを置いておちやいけんでしようというところに追い込まれます。これは時間の問題です。家によっては独自の教育方針の基に「うちはこのやり方です」というのは可能ですが、それは教育の本質から離れています。公教育というのは、今の時代もう「うちのところで義務教育もやります」という親御さんも中にはいらっしゃるのですが、それは別に否定するものではありません。尊重してもいいのですが、それを公教育が目指すわけにはいきませんので、あくまでも全体最適、最大公約数を取りに行ったときに、今の時代、これからの時代どうあるべきかですね、それは大体中央値にそんなにブレがない範囲で想定ができますので、そこを着実に実現していく、これになると思います。課題としては、先ほどの通学とかですね、そのあたりで地域にかなりばらつきがありますので、メリット、デメリットが均一にならないというところですね。仮に場所を吉田の市役所の横とかにすれば、吉田町内の人にはほぼ何も変わらずにメリットが大きいのですが、逆に美土里の方とかですとかなり遠くなりますので、デメリットが大きくなります。その意味では均一にデメリット、メリットが出ません。ただ、それでもなお今の現状を続けていく、続けない、変えるのとどっちがいいんですか？こういう問いかけを私は市民にしておく予定です。

【Question 7】

少数派かも知れませんが中学・高校になると不登校、発達障害等の相談窓口や、受け入れてもらえる所等の情報を知ることができたら助かります。また、難しいかも知れませんが、発達検査、親や子供が受けやすい カウンセリングできる環境があればと思います。

【Anser】

■担当課

発達障害等の相談窓口については、教育委員会が作成し、各家庭に配布している「一人一人の可能性を伸ばす」というリーフレットに相談内容に応じた相談先を示しています。また、安芸高田市が作成している「子育てガイドブック」にも、相談内容に応じた相談先が記載されており、この冊子は市役所や支所で受け取っていただくことができますので、こちらもご活用ください。

【Question 8】

中学校の統合についてです。地元中学校が無くなるのは将来的に大きなリスクにもなり、地域によっては保護者の負担も大きくなるかもしれません。小規模でも子ども達が学べることも多くあり、私は決して「かわいそうな中学校生活」とは感じませんでした。様々な意見があると思います。市長が直接保護者の意見を聞いて頂ける機会がありますか？

【Anser】

■石丸市長

「市長が直接保護者の意見を」というのは、今回の場がそうです。ですが、こうした場を時々設けますが、時々という理由がですが、私が主体じゃないんですよ。教育委員会の所管ですので、基本的には教育委員会に預ける形になります。

【Question 9】

タブレットの導入は子供達にとって必要不可欠だと思います。授業への導入も含め、専門知識のある先生方の雇用など必要かと感じます。働き方改革との事で特に非常勤の先生方は時間制限が設けられ、負担が大きくなってしまっているのではないかと懸念します。これから先、市政として教育現場も含め雇用の創出、市長の考えを伺いたいです。

【Anser】

■石丸市長

これはまさに永井教育長が答弁くださっていたところですが、担当のところでも少しご解説をいただけますでしょうか。

■担当課

タブレットの導入、これからの子供たちは必要になるというのは間違いありません。今導入が進んでいて、4月ぐらいからは全部の学校にタブレットを配備できる準備を整えております。一方で先生方の働き方というところで負担も大きくなってきているのではないかとということで先ほど市長の方からもありましたが、専門的な知識を持った人を配置したりなど、そのようなことを踏まえて取り組みを進めていくように今考えているところです。

■石丸市長

「雇用の創出」とあるのですが、もちろん雇用は生まれると思いますが、行政として重点的にここで雇用というほどの規模ではないだろうと思います。学校ごとに数名、それもさらに掛け持ちで学校とかになるのが専門家の立ち位置かと考えています。

【Qestion 10】

今から、未来を作るのは子供たちで、元気な体と心を持てる様、子供達の思いを尊重する時代かなと思います。やれば出来るんだと言う環境をお願いします。

■担当課

小中学校では、子どもの心に寄り添い、子どもの声を聴くことを大切にしています。また、すべての子どもの学びを保障し、居場所がある学校づくりを進めています。例えば、学び合いの授業を通して、全ての子どもたちが安心して、「わからない」「教えて」と言い合える関係を大切にし、お互いの考えを聴き合い深めることで、自分に対する自信をもたせたり友達を認めたりすることができる教育に取り組んでいます。「やればできる」という気持ちをもつためには、「自分は他人（まわりの友達）から必要とされている」という気持ちや、「自分にはこんな良いところがある」と、自分を認めることが大事だと考えています。

【Anser】

■担当課

「未来を作るのは子どもたち」というこのフレーズがすごくいいなと思っていて、その後押しをしっかりと学校・教職員含めて市教委もできたらいいなと思っています。安芸高田市内の小中学校では、子どもの心に寄り添い、子どもの声を聞くということを大切にしています。すべての子どもの学びを保証する、そして居場所がある学校づくりというのを進めているところです。そうした時にここに書いてあるようにやればできるという気持ちを持つというのがすごく大事だと思っていますが、その気持ちを持つためには自分は周りから認められているとか、必要とされているという気持ちを持つこととか、自分にはこんないいところがある、苦手なこともあるけど、これが好き、これが得意、そんな自分って素敵よねって言える、自分を認めることができる子どもたちを育てていきたいなと思っています。そのために「学び合いの授業」というのを市内全体で進めていますが、すべての子どもたちが安心して仲間に「わからない」「教えて」と言い合えるそういう関係を大切にしたり、お互いの考えをしっかりと聞き合い、考えを深めることを通して、自分に対する自信を持たせたり、友達を認めたり、そういう教育を進めています。また併せてやはり授業の中で子どもたちがわかるとか、できる、もっとやってみたいという思いを持ったり、そういう喜びを実感できること、また子どもたちが問いを持ったり、自ら疑問をもって見つけたその課題を友達と一緒に解決したりする、そんな授業を大切にしていきたいなと思っています。



■石丸市長

私の持論を少しお話してしまうと、この問題は価値観の多様化で対応できるのかなと思っています。すごく単純な例でいうと勉強は苦手だけど、足が速いっていう子いるじゃないですか。いろいろ価値観が軸って本当は無数にあるんですよ。それを学校の場とかで子どもたちが認識できれば、どこかに生まれるはずなんです。自分を認められる、肯定できる場所が。それが今は残念ながら、これまでと言っていいかもしれないのですが多くなかったのかな。特に学力偏重になってしまうと、勉強が苦手だ、好きじゃないっていうだけでどんどん追い込まれてしまいがちな環境というのは、あまり幸せにならないですよ。私いろんな所でダイバーシティとは申し上げているんですが、それは似たような属性、中学校3年生とかという中においても、本当は細かく見ればダイバーシティってたくさんあるんだと思うので、そういう特に大人の視点になるかと思うんですが、私たちの考え方、見方というのをもっと柔軟に、それこそさっきの部活の考え方もなんですけど、みんな部活を一生懸命やるのはいいんですが、みんなでインターハイ目指すのが全てではないですよ。ちょっとフットサルでみんなとワイワイしたい、掛け持ちでテニスやりたい、若しくはそれじゃなくてバイトをしたい、いろんな子どもたちがいるので、それに制度がもっと合っていくといいのかなと思っています。これが、私が思う「やればできるんだ」という環境ですね。やればできることってたくさんあると思うので、そのたくさんあることを分かるようにしていきたいなと思っています。

【Oestion 11】

小学校、中学校の統合は進めたほうがいい。やむなし

【Anser】

■石丸市長

廃校の活用。私自身はアイデアを持ってないです。ハッキリ言いきってしまうんですが。もうすでにたくさん考えられている方がいらっしゃるの承知しているので、その中から何か活かしていただくのがいいんだろうと思います。というのは私自身がそういう商売もしてなければ、取り組みもしていない人間なので、そこは門外漢ということで特段イメージは持ち合わせていません。ただ、市長という立場から申し上げますと、建物というのは置いておくだけで莫大な金がかかります。屋根を水が漏らないようにするってのもそうだし、電気を通すだけ、トイレ置いとくだけで水道代だけでなく浄化槽の維持費とかすごくかかるんです。その意味ではなかなか残すというのはハードルが高いというのは皆さんご承知かと思うんですが、改めてお知らせしていかないといけないなと考えています。

【Oestion 12】

一度学校生活につまずいてしまうと、元通りの学校生活への復帰が難しくなったり、時間がかかったりすることが多い気がします。都会でも稀かもしれませんが田舎にはフリースクールがほぼないので、今あえて安芸高田市にフリースクールを設置するというのはいかがでしょうか。または、通信教育の学校を呼ぶというのもありかと。

## あきたかた Meetup – #教育を語ってみる – 2021.3.17 19:00-20:00

【中学・高校生編】

【Anser】

■石丸市長

先ほどの多様性のもっと広い意味では、こう言う形もいいんだろうなと思います  
が、現実的にどうでしょうか。現場の方の見解として何かあれば教えてください。

■担当課

“フリースクール”という言葉が出てきているんですが、この言葉については文部科学省のホームページ等によると、一般に不登校の子どもに対して学習活動とか教育活動、体験活動等の活動を行っている民間の施設というふうに定義されています。ここではただ、多分学校に行きにくくなった子どもたちにどんなサポートができるのかという質問であると解釈させてもらって、そういう意味で言いますと不登校の子ども・児童・生徒に対するサポートの場として、安芸高田市では適応指導教室“あすなろ”がありますので、そうした場でサポートしていけたらと考えています。

■参加者からの質問

うちの子も高校生になって、通信の高校に行くようになったんですけど、通信教育の学校を呼ぶのもありと書かれているが、結局この近辺にそういう所がなく、結局普通の高校生でも安芸高田市からよそへいろんなものを使って通学しているの、街に行かないとそういう現状がない。県北一体、この町にというのは無理と思うが、県北に通信とかちょっと躰いたこの進学先があったらちょっと助かるなっていうのもあるし、フリースクールにも行けなかったりもしたりとか、そういう情報が自分で動けばいいんですけど、元気なお子さんがたくさんいて、その中の一部だったらその一部をどうにかしてくれというのは無理だけど、そういう所で悩んだりとか、通信高校のこと、自分たちも不登校とかが自分の子に起こると思ってなくて、高校とかそういうことを体験しながら自分たちで探して、じゃあここの高校に決めてたんですけど、通信高校はこういうものっていうのも、他の人に「うち行くようになったんだけど」って言ってもそこの理解は体験した本人の家族とか、こういう単位を取ってこうなっていくんと説明して、ああそうなんだって感じだから通信制の高校も知られてないんだっていう所があって、認識は調べたらいいんでしょうけどこんなところもありますよとかも相談したら窓口で教えてくれるんでしょうけど、高校で躰いて、ちょっとそういうところもあるし、どうかなっていう、相談したら多分答えてもらえたんでしょうけど、ちょっとわからなくて全部自分で動くようだったので、近場でも通信教育やフリースクールとか心の病んだ子、そういう環境もあったらいいと思った。

■石丸市長

義務教育を終えた後での個別対応というか、もう少し細かい対応ですよ。となると、うちの高校が2つあるのがそうであるように県立の高校があって、それも今、生き残りに必死になっている状況があるので、そうした状況では生き残り戦略としてより分野を特化していくのはこれから生まれていくのかなとは思いますが、よりサポートが必要な子供たちに向けて、教育をカスタマイズしていく。それは個々の高校で実現できる、やっていかないといけないのかなと思うんですが、如何せんちょっと機会があったら県の教育長とそのあたりがディスカッションしていきたいと思います。

【Oestion 13】

毎年夏休みに小中学生のニュージーランドへの派遣が行われていましたが、コロナ禍で暫くは出来ないと思われていますが、それが終わる頃には引き続き行われるよう願います。その際は新たに高校生も枠に入れて欲しいです。子どもの頃に異文化に直に触れることは大切だと思うので、そういう意味ではALTの授業がもっと増えるといいなと思います。

【Anser】

■石丸市長

実はニュージーランドのこの事業は残念ながらなくなります。これ聞いて私も「そうなんだな」と合点がいきました。ずっと不公平だと言われてきた事業なんですね。お金がある家庭は持ち出しがあるので、それを使って、お金ももらって行けるけど、持ち出しがあるのでお金がない家だと叶わない。そうした時にすごくいい機会ではあるんですが、機会の平等がそこにはないので、私は行政が公のサービスとして提供すべきものではないと判断をしました。今コロナ禍でできないというのはあるんですが、やはりそもそも論ですね。公の教育がどこまで何を機会として提供するのかというのを考えたときに、私はその短期留学じゃなくていいのかな。異文化コミュニケーションっていうか、輝ら里行ったらなんぼでもできますよ。もちろん英語圏の方が少ないので英語の勉強にはならないかもしれないんですが、そんなに英語の勉強がしたいんだったらオンラインで今いくらでも安くできます。それで十分です。そうじゃなくて、語学じゃなくて異文化コミュニケーション、これすごく大事だと思うんですね。先ほどの多様性、日本に生まれて育つとなかなか見えないことが多いので、その意味で違う国の人と接するってすごく貴重な機会だと思います。でもそれをわざわざニュージーランドに求めなくても、もっと近場にあるというので、そこは視点を変えれば全部うまく解決できるんじゃないかなと思っています。

■事務局

ここまで「教育を語ってみる」ということで進めてまいりました。またこういう形でいろいろ意見を伺っていきたくと思いますが、最後に石丸市長から今日のまとめをお願いします。

■石丸市長

まとめるも何もお前がずっと喋ったただろというところで大変恐縮なんですけど、冒頭申し上げた通り、ここにこうして今日お集まりくださった皆様という存在に、非常に勝手ながら期待をしています。こういう集いから、こういう試みから新しい動きというのが生じていくんだと思います。特に先ほどの部活の話とか、大人がちょっと頑張ったら変われるのかなと思いますので、そのあたりは私自身も教育委員会としっかりと協議をして、制度の設計、予算の配分を検討していきたいと思いますので、ぜひ皆さんの周りでも「これがいい」「あれが良くない」「これが足りない」とかぜひ気に留めていただければと思います。自分の昔を振り返っていただくだけでも十分かと思うのですが、「もっとこうだったら私はこんなになっていたはずなのに」とか、それこそ次の世代に、今の子どもたちに供給してあげるべきものかと思いますので、一旦この場はこれで終わってしまうんですが、随時アイデアは大募集していますので、ぜひ何かの機会にお声掛けをいただければと思います。今日は遅い時間にどうもありがとうございました。